

競 技 注 意 事 項

1. 競技規則について

本大会は、2024 年度公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会申し合わせ事項により実施する。

2. 競技場の会場時間について

陸上競技場がある運動公園入口のゲートは早朝（5 時ころ）に開錠されますが、競技場の正面入口や場内に入る各ゲートの開錠は 7：00 です。

3. 練習会場等について

- 1) 練習はプログラム記載の指定された会場で、別紙の練習会場使用日程に従い実施すること。
- 2) 本競技場（釧路市民陸上競技場）内での練習は競技役員、補助競技場（釧路市民陸上競技場附属競技場）については、開催校の会場係の指示に従うこと。特に、投てき練習については、引率者等の付き添いのもと事故防止に努め、お互いに声掛けをするなどして、安全に留意すること。
- 3) 本競技場でのチューブを用いた牽引走やメディシンボール、ミニハードル、ラダー等の用具を使用する練習は禁止する（補助競技場においては可とする）。
- 4) 本競技場では、芝生内でのウォーミングアップは禁止とする（補助競技場では可とする）。なお、補助競技場の投てき練習場での投てき練習は、指定時間内のみ認める（やり投は突き刺しのみ）。ただし、投てき用具の貸し出しは行わない。

【練習会場ごとの注意事項と開閉場時間】 * 詳細は別紙 3 「練習会場使用日程」を参照

(1) 釧路市民陸上競技場(本競技場)

- ① 開閉場時刻 ※会場設営を優先し、練習を制限する時間がある。

【開 閉 場 時 刻】

9月6日（金） 12：00 ～16：00 （開会式で中断） 開会式終了後～17：00 まで使用可能
9月7日（土） 7：00 ～ 9：00 （競技で中断） 競技終了後～17：00 まで使用可能
9月8日（日） 7：00 ～ 9：00 （競技で中断） 閉会式終了後～16：00 まで使用可能

- ② 男子・女子走幅跳、三段跳びはホームストレート側の跳躍ピット（それぞれ1ピット）

- ③ 走高跳は9月6日・7日の2日間のみ。

- ④ 9月7日・8日の投てき種目の練習については、当日競技がある種目のみとする。

- ⑤ 各試技場には補助員を配置しないので、選手同士で譲り合い、助け合って行って下さい。

- ⑥ レーンの使用は、下記の通りとする。なお、逆走は禁止する。

レーン	種 目
周回1～2レーン	中・長距離 主にスピード練習
周回3～4レーン	短距離・リレー（3～4レーン） 男子400mH（第1コーナーからバックストレート：8レーン）

ホームストレート 5～6レーン	短距離
ホームストレート 7～8レーン	7レーン：100mH 8レーン：110mH

(2) 釧路市民陸上競技場附属競技場（補助競技場）（隣接する投てき練習場を含む）

*トラックは全天候型ではなく土

① 開閉場時刻

【開閉場時刻】

9月6日（金） 12：00 ～ 17：00

9月7日（土） 7：00 ～ 17：00

9月8日（日） 7：00 ～ 16：00

② トラック内側の芝生での投てき練習は禁止。

トラックに隣接する投てき練習場での砲丸投、円盤投、やり投の練習は可とする。ただし、やり投げは突き刺しのみとする。

(3) 屋内練習場

釧路市民陸上競技場（本競技場）の2F「室内走路」は、軽い運動（アップ等）のみ可とする。

(4) その他

① 本競技場での芝生内の練習（ウォーミングアップ、クーリングダウン等のランニング）は禁止する（補助競技場においては可とする）。

② 投てき練習（やり投、円盤投、砲丸投）は時間を指定して認める。

*別紙3「練習会場使用日程表」参照

ただし、指定された時間以外は芝生内の投てき練習は禁止する。

③ 芝生内は競技に係わる競技者・審判以外の立ち入りを禁止する。

④ 選手・付添い者は、競技会場、練習会場並びに招集場付近での日傘の使用を禁止する。

4. 招集について

(1) 招集所は、競技場正面玄関横（フィニッシュ側）に設ける。

(2) 招集開始時刻（点呼開始時刻）及び招集完了時刻（移動開始時刻）は、競技開始時刻を基準とし、種目別招集開始時刻・完了時刻は、プログラムの競技日程表を参照のこと。

(3) 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権したものとして処理する。

(4) 招集の手順

① 競技者は、前記(2)に示した招集開始時刻に招集所で待機し、最終確認を受けること。その際、アスリートビブス（リレー種目は競技者4人のユニフォーム）・競技用スパイク（靴）・衣類・持ち物等商標の点検を受けること。

② ユニフォームおよび携行品の商標については、日本陸上競技連盟制定の「競技会における広告およ

び展示物に関する規程」に従うこと。規程に抵触している場合は、是正を求めるので従うこと。

*** 「15. 衣類の商標（ロゴ）等について」を参照**

- ③ 招集完了後、審判員の誘導で競技場所に移動する。
- ④ ビデオ・ラジオ・CD・トランシーバー・携帯電話もしくは類似の機器等を競技場内に持ち込むことができない。(TR6.3.2)
- ⑤ 招集所は、当該種目の競技者以外の立ち入りを禁止する。
- ⑥ 招集は本人が点呼を受けること。ただし、他の種目に出場している場合のみ代理を認める。
- ⑦ 他種目と兼ねて同時に競技する競技者は、競技者係及びその種目の審判員に申し出て、競技に支障のないようにする。なお、当該競技者でトラック競技が先に開始される場合は、トラック競技終了後ただちにフィールド種目の競技場所に移動し、担当審判員に申し出ること。また、フィールド競技の途中でトラック競技に出場する競技者は、競技開始前、担当審判員にその旨を申し出ること。(TR4.3 TR25.19)
- ⑧ リレー種目について
 - i. リレーオーダー用紙は招集所で受け取ること
 - ii. リレーオーダー用紙に必要事項を記入し、当該種目1組の招集完了時刻の1時間前までに、競技者係(招集所)に提出すること(7:30より受付可能)。
 - iii. リレーオーダー用紙を提出した後は、大会医務員の判断がない限り変更は認められない(提出後の怪我等は除く)。変更を希望する場合は、本部から『リレーオーダー変更届』を受け取り、医務員の判断を受ける。変更が認められた場合のみ、『リレーオーダー変更届』を招集所の競技者係に提出する。なお、変更は出場選手のみであり、走順を再編成することはできない。
- ⑨ 出場種目を欠場する場合は、招集完了時刻30分前までに競技者係へ口頭で申し出ること(その際自身のアスリートビブスを持参すること)。
※欠場届の書類を提出する必要はない。

5. アスリートビブス及び腰ナンバー標識について(TR5.7)

- (1) アスリートビブスは、主催者が用意したそのままの大きさのもの(横24cm×縦16cm)をユニフォームの胸部と背部につけること。折り曲げたり、汚したりしないこと。ただし、跳躍競技に出場する競技者は、胸部または背部のみでよい。また、トラック競技出場者は、写真判定用の腰ナンバー標識を招集所で受け取り、右腰のやや後方につけること。リレー競技については4×100mRは第4走者のみ右腰やや後方に、4×400mRは第2・第3・第4走者ともに右腰やや後方につけること。(TR5.10)
- (2) 男子1500m、男子5000m、男子3000mSC、女子3000mについては、胸背部ともにプログラム記載の左側に示された番号と同数字の胸用レーンナンバーを使用する。招集時に配布する。その際、プログラム記載の各自のアスリートビブスを持参すること。

6. 競技場への入退場について(別紙1「釧路市民陸上競技場平面図」を参照)

- (1) 入退場は、競技役員の指示に従うこと。競技者以外はトラック、フィールドに立ち入ることはできない。
- (2) トラック種目の衣類運搬は行わない。出走地点に戻る場合、大会本部前は競技役員以外通行できないので注意すること。第1・第4ゲートから出入りすること。
- (3) フィールド種目の競技者は、競技終了後、審判員の指示により退場する。
- (4) 入賞者は、審判員及び係員の誘導で入賞者控え場所(メインスタンド1Fホール)に移動し、そこで待

機し、表彰係の指示により行動する。

7. 選手の抽選ならびに番組編成について

- (1) トラック競技の予選のレーン順、フィールド競技の試技順は、プログラム記載の左側に示された番号順とする。
- (2) トラック競技の決勝については、主催者がルールに則り、組み合わせ及びレーン順を決定する。フィールド競技（走高跳を除く）の決勝については、3回の試技で上位8人を選出し、記録した成績の低い順に、後3回の試技をする。トラック競技の決勝のレーン順は、速報サイトより発表する。(TR20)
- (3) トラック競技は原則として写真判定（0.001秒）の記録順によって決勝進出者を決定する。着順で決める最後の1枠が同着であった場合は、プラスアルファの1枠を減ずる。プラスアルファの最後の1枠を決めるにあたり同成績者がいる場合、レーンに余裕のある場合には決勝に進むことができる。レーンに余裕がない場合は、同成績者または代理人によって抽選する。
- (4) 抽選が必要となった場合は、該当競技者へアナウンスにより連絡し、大会本部において当該競技者、または代理人による抽選を行う。なお、アナウンス後20分経過しても当該競技者あるいは代理人が来なかった場合は、主催者が代行する。
- (5) タイムレース決勝において、同成績者が出た場合は、同順位とする。

8. 競技について

- (1) 競技場内には、当該種目出場の競技者並びに役員（審判員及び補助員）以外は、立ち入ることができない。
- (2) トラック競技のスタートにおいては、一度の不正スタートで該当競技者を失格とする。
- (3) トラック競技のスタートにおいて、「On Your Marks」あるいは「Set」の合図後に音声や動作、その他の方法で他の競技者を妨害した競技者には、審判長が警告（イエローカードもしくはレッドカード）を与える。なお、今大会期間中に同一種目において二度の規則違反があった場合は、当該種目のみを失格とする。
- (4) セパレートレーンで行うトラック競技では、欠場者のレーンはそのまま空ける。
- (5) 短距離種目では、競技者の安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自分のレーン（曲走路）を走ること。
- (6) トラック競技では、すべて写真判定装置（全自動電気計時）を使用する。
- (7) トラック競技では、棄権等により出場者が8名以下になった場合、予選をなくして決勝時に行うものとする。
- (8) リレーチームの編成メンバーは、どのラウンドにおいても本競技会のリレーまたは他の種目に申し込んである競技者であれば出場することができる。ただし、どのラウンドにおいても、出場するメンバーのうち少なくとも2人は当該リレー種目に申し込んだ競技者でなければならない。最初のラウンドに出場した競技者は、その後のラウンドを通して、2人以内に限り、他の競技者と交代できる。また、リレー競技に出場するチームは、同一のユニフォームを着用する。(TR5.1 TR24.10) ユニフォームに関して色やデザインが同様で同一のチームと判別可能であれば、形状が異なる衣類を着用してもよい（例：セパレートとランニングシャツなど）。
- (9) 4×100mRの第2・第3・第4走者は、自チームが用意する最大50mm×400mmの粘着テープ（ガムテープは除く）をマーカーとして1カ所使用することができる（競技終了後は、チームで回収すること）。

- (10) 4×400mR の第3・第4走者のバトンの受け渡しは、コーナートップ通過順に競技役員の指示に従い内側より並んで待機する。その後、この順序を変えてはならない。コーナートップの地点は、200m スタート地点内側に設置された黄旗で示される。
- (11) 男子 5000m は、グループスタートとする。
- (12) フィールド競技は、走高跳を除いて主催者が用意したマーカーを置くことができる。跳躍・やり投の競技者は、助走路の外側（走高跳では助走路内）に2カ所置くことができる。サークルから行う投てき競技では、各競技者の試技中に一時的に、マーカーを1カ所だけ置くことができる。そのマーカーは、サークルの直後あるいはサークルに接して置くこと。使用することができるマーカーは、競技役員が現地で渡す。そのマーカー以外は使用してはならない。使用したマーカーは、競技終了後各自で回収すること。
- (13) フィールド競技の試技時間は、制限時間告知器で表示し、黄色旗で残り15秒を知らせる。
- (14) フィールド競技における競技場内での練習は、担当審判員の指示により行う。公式練習は2回とする。投てき種目は1投1計で実施。
- (15) 男子三段跳の踏切板は、11mとする。
- (16) 競技者に対する競技場内での助力は禁止とする。「コーチングエリア」は特に設けないため、助言については、TR6.4を特に留意すること。よって、スタンドからの助言については競技運営ならびに他の競技者の競技の妨げにならない範囲で認めるものとする。
- (17) 助力に関しては、特に以下の項目に注意が必要である。(TR6.4)
- (ア) フィールド種目に出場している競技者が、当該競技者に代わり競技区域の外にいる者によって録画されたそれ以前の試技の映像を見ることは認められる。(ただし、録画再生機器や録画映像を競技区域内に持ち込むことは認められない。)(TR6.4.5)
- (イ) 指定された場所で、審判長が認めた場合に渡す帽子、水分・氷、靴や衣類などは認められる。(審判員を通して行うこと)(TR6.4.6)
- (ウ) ビデオ等による助言は認められるが、競技者が機器の操作をすること、競技者が視聴のために勝手に当該競技エリアから離脱すること、助言者からの文章による連絡は認められない。
- (エ) 走幅跳、三段跳の踏み切り板付近では、自校の選手の試技が終了したら次の学校に場所を譲るよう配慮する。
- (18) 競技中における助力は「日本陸上競技連盟競技規則 TR6」に従い規制される。これに抵触の場合は審判長から注意、勧告をするが、是正されない場合はその種目から除外される場合がある。
- (19) 記録掲示は行わない。速報サイトで確認すること。
- (20) 競技に関する提出書類は、下記のとおりとする。

提出書類	配布場所	提出締切時刻	提出場所
プログラム訂正用紙	学校受付時の封筒内	訂正ある種目の 招集完了時刻1時間前	本部
リレーオーダー用紙 ※該当校のみ	招集所	1組目招集完了時刻1時間前	招集所・競技者係
リレーオーダー変更届	本部	招集完了時刻	招集所・競技者係
抗議申し立て（口頭）	本部・総務	予選：15分・決勝：30分	本部・総務
上訴申立書（文書）	本部・総務		本部・総務

9. 走高跳のバーの上げ方について（天候等の状況により変更する場合もある。）

- (1) バーの上げ方は、最後の一人になる場合を除き、以下のとおりとする。

種目	練習	1	2	3	4	5	以降
男子走高跳	1m70/1m85	1m75	1m80	1m85	1m90	1m93	3cm 刻み
女子走高跳	1m30/1m50	1m35	1m40	1m45	1m48	1m51	3cm 刻み

- (2) 優勝決定戦におけるバーの上げ下げは 2 cm とする。
(3) 優勝が決まった後にバーをあげる場合は、競技者は当該審判員あるいは審判長に希望の高さを申し出てから高さを決定する。
(4) 状況によっては審判長の判断によりバーの上げ方を変更する場合がある。

10. 競技用具について

- (1) 競技に使用する用器具はすべて主催者が用意したものを使用しなければならない。ただし、投てき用器具については、通知した競技場備え付けの投てき用具リストに無いもの及び、2個以下のもの限り、当日検査の上使用を認める。
(2) 希望者は大会期間中 8：30～9：00 の間に 100 m スタート側器具庫で検査を行い、検定に合格したものに限り使用を認める。これは、出場者全員で共有できるものとする。なお、借り上げ用具が破損しても責任を負わない。借り上げ用具は、100 m スタート側器具庫で投擲審判員が返却する。
(3) 投てき練習として割り当てられた時間帯での練習は、各自が用意したものを使用すること。
(4) 練習用の個人の用具は、競技中、競技場内に持ち込んで서는ならない。
(5) 競技場に備え付けの投てき用具は、プログラム記載のとおりである。

11. 競技用靴について

- (1) スパイクのピンの数は 11 本以内で、長さは 9 mm を超えてはならない。また、走高跳及びやり投では、12 mm を超えてはならない。さらに、直径は先端が 4 mm 以内でなければならない。
(2) 競技で使用するシューズ（スパイク、ランニングシューズ含む）の靴底の厚さは以下の表に記載された物でなければならない。(TR5.2)

1. 種目	フィールド種目 (除く三段跳)	三段跳	800m未満のトラック種目 (ハードル種目を含む)	800m以上のトラック種目 (障害物競走を含む)
最大の厚さ	20mm	25mm	20mm	25mm

- (3) 検査が必要と競技役員が判断したものに限り検査を行う。必要に応じて、競技役員が競技用靴を競技前、競技中または競技後に検査することもある。規格に適合しないシューズについては適合シューズへの履き替えを指導する。適合シューズ以外では出場できない。

12. 抗議と上訴について (TR8)

- (1) 競技中に起きた競技者の結果または行為に関する抗議は、その種目の結果が公式発表されてから（基準時刻は、場内アナウンスでの結果発表が終了した時刻とする）、次ラウンドが行われる種目は 15 分以内、それ以外は 30 分以内に、競技者自身または代理人が、本部の抗議担当総務員を通じて審判長に対して口頭で申し出なければならない。
(2) 口頭での抗議に対して、審判長の裁定に不服としてさらに上訴する場合は、その競技者に代わる責任

者（顧問または監督）が預託金 10,000 円を添えて『上訴申立書』を、本大会総務を通してジュリーに提出されなければならない。なお、この預託金は、抗議が受け入れなかった場合は没収される。

- (3) 抗議や上訴をした場合、抗議者はその後すみやかに抗議担当総務員により抗議者控室（個室）へ誘導される。

13. 表彰について

- (1) 各種目の 1 位から 3 位の競技者には賞状とメダルを、4 位から 8 位の競技者には賞状を授与する。入賞者（代理可）は、競技終了後直ちに表彰を行うので、審判または担当係員の誘導のもと正面中央ホールの表彰者控え所に集合し、表彰係の指示に従うこと。
- (2) 表彰時の服装は、原則、チームウェア等（競技用とウォーミングアップ用の衣類どちらもよい）を着用。T シャツ着用も可とする。下半身はウォームアップ用衣類（各高専のジャージ）が望ましい。なお、サンダル履きは不可とする。衣類の商標（ロゴ）に関して日本陸上競技連盟の規定に基づき、競技役員から指摘を受けた場合は、その指示に従うこと。（15. を参照）
- (3) 学校対抗における男女総合優勝校には、賞状および文部科学大臣杯を授与し、2 位から 6 位には賞状を授与する。

14. 各校の待機場所（別紙 4「テント設置可能場所について」参照）

- (1) 各学校の待機場所（本競技場）はメインスタンドおよび芝スタンド（メインスタンド横を除く）とする。メインスタンドの場所取り及びテント設置は不可とする。芝スタンド（メインスタンド横を除く）および競技上外周の指定場所にはテント設置可能である。芝スタンドについては、各ブロックごとにおおまかな設置場所を指定する。なお、正面入り口前の軒下等は待機場所として使用不可。
- (2) 本競技場内のテントについては、大会期間中置いておくことは可とするが、必ずしっかり固定した上でたたんでおくこと。破損・盗難等について主催者側は一切責任を負わない。なお、競技場外周のテントについては、毎日完全に撤去し、何も残さないこと。
- (3) 本競技場に加えて、次の施設が待機場所として利用可能である。

ウインドヒルひがし北海道スタジアム（釧路市民球場）

9 月 6 日（金） 12：00～17：00

9 月 7 日（土） 7：30～17：00

9 月 8 日（日） 7：30～17：00

- 2) 正面入り口側施設外周の軒下、施設内 1F ホール、2F コンコースはシート等を敷いて各校の待機場所として使用可（主に雨天時を想定）。
- 3) 観客席・球戯場グラウンドの使用不可。

15. 衣類の商標（ロゴ）等について

- (1) 基本的に、WA（世界陸連）の広告規定に則ること。
- (2) 選手諸君においては、特にアスリートキット（競技用・ウォームアップ用衣類、その他競技会参加時に競技者が着用する衣類等）、その他個人所有物・アクセサリーに表示する商標（ロゴ）、スポンサー名、大会名等について、同規定に抵触することがないように注意すること。
- (3) 衣類の商標（ロゴ）等について、招集所等で審判員の注意を受けた場合は、速やかにその指示に従うこと。その場で、テーピング等の臨時措置を施すことがある。
- (4) 以下に、規程の一部を例示する。

JAAF 国内規程 国内大会 学校用 (ユニホーム・ジャージ等衣類について)

学校名/ロゴ

- ・上衣は前面、背面に1つずつ
- ・下衣は前面か背面にいずれか1つ
- ・大きさは問わない

製造会社名/ロゴ

- ・上衣、下衣それぞれ1つずつ
- ・場所は問わない
- ・40cm²、最大高さ5cm、最大長さ10cm

スポンサーA名/ロゴ

- ・上衣、下衣それぞれ1つずつ
- ・場所は問わない
- ・上衣、下衣とも全く同一の表示でなければならない
- ・40cm²、最大高さ5cm、最大長さ10cm

スポンサーB名/ロゴ

- ・上衣、下衣それぞれ1つずつ
- ・場所は問わない
- ・上衣、下衣とも全く同一の表示でなければならない
- ・40cm²、最大高さ5cm、最大長さ10cm

*製造会社名/ロゴとスポンサー名/ロゴが同一のものであってはならない

16. 一般注意事項

- (1) 応急処置その他健康上の問題が生じた場合は、本部（医務室）に連絡して処置を受ける。医務室は、本競技場大会本部近くに設置している。なお、競技会中の傷害などの応急処置は主催者側で行うが、応急処置後の通院等における治療は本人負担とする。発熱等の内科的症状については各校で対応すること。
- (2) 更衣室は本競技場メインスタンド2Fの「室内走路」に併設されている。正面入り口から入館すること。なお、更衣室は更衣のみに使用すること。ロッカーは使用せず、更衣後の荷物は各自で管理すること。また、1Fの男女各更衣室は、大会補助員の待機場所となるため、更衣室としては使用を禁止する。
- (3) 大会期間中の貴重品の保管は各自で行うこと。盗難等にあっても主催者側は一切責任を負わない。
- (4) 各チームの横断幕は、芝スタンド（メインスタンド横を除く）後方の柵と、芝スタンド（メインスタンド横を除く）と競技区域を隔てる手すりに設置することができる。その際、横断幕の裾が競技区域にはみ出さないように注意すること。その他の場所に設置することは禁止する。
- (5) 集団応援は芝スタンド（メインスタンド横を除く）で認める（ホームストレート側のメインスタンドでの集団応援は禁止）。
- (6) メインスタンド最前列に立っての観戦・応援は禁止する（席に座って観戦・応援している人の迷惑になる）。

- (7) ゴミは各校、毎日必ず持ち帰ること（留め置きはしない）。大会期間中、責任を持ってゴミの処理を行うこと。ゴミ袋は初日の学校受付時に配布する。
- (8) 競技場周辺の車両の駐車等については、別紙5「釧路大規模運動公園（駐車場案内図）」を参照。

17. 基本的な新型コロナ感染症対策について（一般社団法人全国高等専門学校連合会より）

基本的な感染対策は重要であるため、下記に基本的な感染対策の考え方等を示し、確認、留意をお願いする。

- (1) マスクの着用は、個人の主体的な選択を尊重し、着用は個人の判断に委ねることを基本とする。
- (2) 手洗い等の手指衛生や換気については、基本的感染対策として引き続き有効なため、励行を推奨する。
- (3) 以下いずれかの目安に該当する「体調不良者」は、競技会への参加を見合わせることを推奨する。
 - ・息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさ（倦怠感）、高熱等の強い症状のいずれかがある場合
 - ・重症化しやすい人（基礎疾患を有する人等）で、発熱や咳などの比較的軽い風邪症状がある場合
 - ・比較的軽い風邪症状が続く場合

18. 学校・審判受付について

<受付時間>

*学校・審判受付は、本競技場正面玄関前に設置する。

・9月6日（金）12：00～17：00

・9月7日（土）8日（日）7：30～14：00

*上記日時以外及び係員が不在の場合は、直接本部に問い合わせること。

大会総務（本部） 釧路高専 林 幸利 携帯番号 090-8638-3369

19. 審判打ち合わせについて

・9月7日（土）8：30～ 本部前（終了後、パートごとの打ち合わせ）

・9月8日（日）8：30～ 本部前（終了後、パートごとの打ち合わせ）

20. 駐車場について（別紙5「釧路大規模運動公園（駐車場案内図）」参照）

21. 競技場までの交通機関について（別紙6「競技場までの交通機関について」参照）

22. 専門部会議・監督会議会場について（別紙2「ウインドヒルくしろスーパーアリーナ俯瞰図」参照）

23. 撮影（写真・ビデオ等）に関するお願い

以下のとおり盗撮等迷惑撮影防止に関する協力をお願いする。

写真・ビデオ撮影に関するお願い

～盗撮等迷惑撮影防止に関する協力～

- ・ 競技者本人および保護者の了解がない撮影を禁止する。撮影を希望する場合、申請が必要である。学校受付で申請し、撮影許可証を受領すること。

- 撮影許可証を常に持参して（首に掛けて）撮影すること。
- ただし、各参加校の監督およびコーチや学生等は、学校名がわかる服装の場合のみ、許可証なしでの撮影を認める。
- 以下の場所での撮影・行動を禁止する（重点警戒撮影方向）
 - 各種目のスタート後方および前方からの撮影
 - 走高跳，走幅跳，三段跳の助走後方・着地前方からの撮影
 - 走高跳マットに向かった正面からのクリアランス動作中の撮影
 - 投てき種目における選手の正面からの撮影
 - 競技者がスタート準備や試技待ちしている間など，準備を行っている際の撮影
 - 通路及びスタンド以外での撮影
 - 競技の観戦とは全く関係のない目的での撮影、身体の一部を拡大した撮影

<申請が必要な撮影機材>

一眼レフカメラ、ミラーレンズカメラ、デジタルカメラ、ビデオカメラ、ウェアラブルカメラ、アクションカム（CCDカメラ・Go-proカメラを含む）

- 競技者等に著しく迷惑をかける行為であると主催者が判断した場合は，速やかに警察及び関係機関に連絡します。また，上記規則を守らなかったことによるトラブルについては，該当校の顧問に対応をしていただきます。
- 不審な行動をする人物を見かけた際は，近くの役員に声を掛けること。

<例外事項>

表彰時のみ、表彰を受ける選手の正面からの撮影を認める。ただし、撮影の際は、周囲の方の迷惑にならないように留意すること。表彰終了後は速やかに移動すること。